

海外事業 ～成長を牽引する事業～

■ シンガポール拠点における基盤強化

ダイダンは現在、中期経営計画Phase2《磨くステージ》において、海外事業を「成長を牽引する事業」と位置づけ、事業拡大に取り組んでいます。2024年にダイダングループの一員となったPresico Engineering Pte.Ltd（以下Presico社）のChong社長と、2026年4月に就任した麻生国際事業本部長へのインタビューを通じ、海外事業の役割や重点課題、今後の方向性を紹介します。

当社における海外事業の役割について

麻生 海外事業の最大の役割は、事業拡大と収益確保によって、ダイダン全体のリスクを分散させることです。海外で新たなビジネスチャンスを獲得し、収益基盤を確保することで、国内の景気変動リスクを補完していくことが理想です。海外拠点の中でも、シンガポールは3拠点あり、相互にシナジーを生み出し成長することが期待されており、国際事業本部として最重要エリアと考えています。

シンガポールにおける顧客ニーズと、Presico社の提供価値

Chong シンガポールにおける建設需要はとて高く、お客さまは高い技術力や技術支援を求めています。その期待に応えるためには、優秀な人材の確保とチームワークが欠かせません。質の高いサービスと強力な技術支援を提供し、お客さま・コンサルタント・メインコントラクターなどと互いに協力して一つの強いチームになることが、プロジェクト成功の最重要要素だと考えています。

工期遅延・コストの増加・品質の不具合などのリスクを未然に防ぐためのリスクマネジメントについて

Chong 工期遅延はさまざまな要因で起きるため、私たちだけでは完全に防ぐことはできません。そのため、常に工事進捗を把握し、スケジュールを細かく管理しリスクを最小限に留めるように努めています。期限のあるプロジェクトでは、遅れを取り戻しつつ品質を確保できるよう追加の技術者や監督者を確保しておくことも重要です。

麻生 海外事業の拡大において、リスクマネジメントは最重要課題です。特にシンガポールの建設市場はローカル化・大型化が進み、潜在リスクも増していると感じています。海外拠点単独ではなく、日本の各本部が海外拠点と緊密に連携し、営業段階から竣工までダイダン全体で一貫したリスクマネジメントを行うことが重要です。

収益性確保のための、Presico社での案件の受注基準について

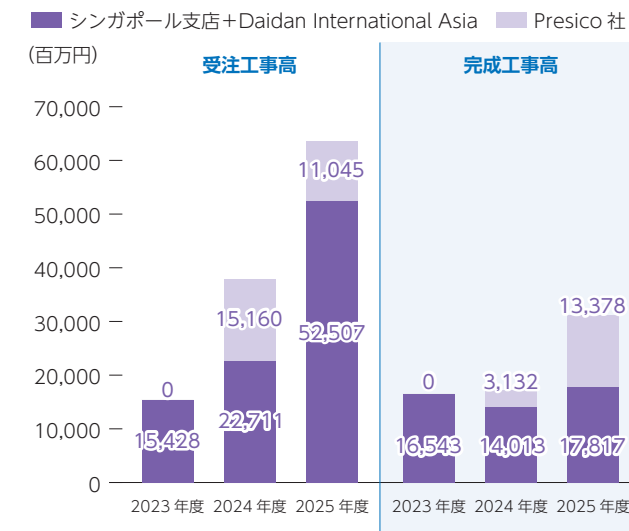
Chong 収益性確保のため「予算管理」「コスト効率の良い設計」「厳格なスケジュール管理」を徹底しています。受注後すぐにベンダーや請負業者との交渉を始め、予算を確定させます。設計段階では手戻りを避けるために、品質とコスト効率を両立させた実行可能な設計を作成します。施工中はプロジェクトマネージャーが定期的に会議を行い、工程の遅延を防ぎます。設計の手戻りや施工遅延はコスト増に直結するため、緻密な準備と管理が不可欠です。

国際事業本部としては収益性の確保についてどのように考えていますか？

麻生 国際事業本部としても収益性の確保は喫緊の課題です。Presico社がダイダングループに加わったことで生まれるシナジーが、利益の確保につながると考えています。従来単独拠点では受注が難しかった案件にも、ダイダングループとして受注できる余地が広がりました。まずはシンガポールでの経験と実績を足掛かりに、新た

シンガポール拠点 受注工事高／完成工事高

※ Presico社は2024年10月1日より連結対象。
受注工事高・完成工事高は同日以降の実績



な経営手法を取り込み、国際事業本部全体での事業拡大につなげたいと考えています。

Presico社がダイダングループの一員となったことでのプロジェクト推進、技術、人材、ガバナンスなどの変化について

Chong 最大の変化はガバナンスの進展です。ダイダングループの一員となったことでSOPやJ-SOX、リスクアセスメントなど多くの事項に対応する必要があり、結果として統制強化につながっています。Presico社にとって非常に良いことだと感じています。

プロジェクトの実行に関してはこれまでと変わりませんが、今後は人材交流や施工技術の相互移管に期待しています。Presico社とダイダンのスタッフが行き来し、施工管理や会計などを学びあえる仕組みをつくりたいです。

麻生 Presico社が加わったことで、シンガポールでのシェア拡大をさらに進め、トップシェア獲得を狙える底力がついたと思っています。現地密着で成果をあげているPresico社が当社グループに与える好影響は大きいと感じています。需要拡大に対応するため、人的リソースの相互補完や技術伝承を進めつつ、ガバナンス強化とリスクマネジメント促進に注力したいと思っています。

今後の事業拡大に向けた人材育成について

Chong シンガポールの建設業界の課題は、技術者が減っていることです。シンガポールの若者は建設分野への就職に対して消極的な傾向を感じます。Presico社は、BCA^{*1}、ITE^{*2}、ポリテクニク^{*3}などの各省庁や教育機関と協力し、将来の優秀なエンジニアを育成するインターンシッププログラムを実施しており、毎年2～3名

の学生が3～6か月の期間学ぶ機会を提供しています。また、日本から経験豊富な技術者の支援があればさらに当社の技術力は向上し、日本の技術者にとっても良い経験になると思っています。

麻生 国により市場や管理手法、文化が異なるため、画一的な育成は難しい面があります。それぞれの拠点を横断した人材交流や現場のクロスパトロールなどを取り入れ、各国で適応して活躍できる「グローバル人材」を育てたいと考えています。

将来的なビジョン

Chong 各拠点がバラバラではなく、一つの「ダイダンチーム」として稼働できることが理想だと考えています。

麻生 これまでBCA^{*1}の最高位であるL6^{*4}の資格を活かし、政府主導の大型プロジェクトを経験してきました。Presico社が加わったことで、ローカル市場にコミットした受注をさらに加速させていきたいです。国際事業本部としては、海外事業を安定的に収益を生み出す柱へ育てるため、柔軟性・グローバルな視点・コミュニケーション力などのビジネスマインドを高め、海外特有のカントリーリスクにも対応できる体制を強化していきます。

*1 BCA：Building and Construction Authority（建築・建設庁の略）

*2 ITE：Institute of Technical Education（技術教育機構の略）

*3 ポリテクニク：職業教育を目的とした高等教育機関

*4 L6：シンガポールにおける公共建築の発注の際にはBCAが定義するCRS（Contractors Registration System）によって、入札参加基準が提示されます。ダイダン、Presico社ともに【空調・冷凍・換気工事】【電気工事】【総合設備】の3つのカテゴリーにおいて最上位（最格）のL6グレードを保有しています。

Presico社 代表取締役社長
Chong Choon Meow

国際事業本部長
麻生 博

海外事業拡大に向けた営業活動

海外各拠点



シンガポールには、支店・現地法人であるDai-Dan International Asia Pte. Ltd.・連結子会社であるPresico社の3拠点があり、1979年の支店開設以来、当社の海外事業を牽引する存在です。Presico社は、2009年の設立以来、国立大学などの教育施設や大型医療施設など多様な施工実績をもち、近年ではシンガポール全土の公共交通の電氣化事業に参画するなど現地の地盤に密着して活動しています。医療施設やリゾート施設、空港の拡張工事など案件の大型化が進み、建設需要が高まるシンガポールにおいて、3拠点が相互にシナジーとガバナンスを効かせながら、成長を目指してまいります。



設立6年目のダイダンベトナムでは、北部・中部・南部を問わずベトナム全土で受注できるよう施工体制を整えています。

日系のお客さまを中心に受注活動を行っており、2025年には現地で初めて営業職の社員を採用するなど受注拡大と実績づくりに取り組んでいます。

ベトナムでは建設プロジェクト遂行に多くの課題がありますが、営業・設計・施工段階から日本と連携し、ダイダン品質の空間価値を提供してまいります。



1984年設立、42年目を迎えたダイダントailandは、バンコク本社・チョンブリ営業所・ランブーン営業所と3つの拠点をもち、日系工場向け設備工事会社として多くの工事に携わってきました。

2026年には常駐の営業担当が新たに赴任し、工場新設工事だけでなく設備の維持・管理・更新工事や太陽光発電の導入工事など、幅広い分野の受注を目指し、事業拡大に取り組んでいます。



グローバル人材の育成

海外事業の拡大においてはグローバル人材の育成が最重要課題と考え、海外の現場にて施工管理を経験する研修を実施しています。



遠藤 祐輝

研修生の声

- 赴任国/期間：ベトナム/12ヵ月
- 主な担当現場：Castem Vietnam precision mechanical factory（空調・給排水衛生・電氣設備工事）

私はベトナムに研修生として、CASTEMプロジェクト他に携わりました。未経験業務への取り組みや異なる環境下での現場業務は大変な面もありましたが、周りからのサポートもあり、成し遂げることができて自信ができました。今回の研修を通して、将来再び海外で働きたいというキャリアビジョンが芽生えました。



酒井 隆矢

研修生の声

- 赴任国/期間：タイ/12ヵ月
- 主な担当現場：SIAM NKS New Office and Warehouse（空調・給排水衛生・電氣設備工事）

私は研修生としてタイに赴任し、主に施工管理および設計積算業務を担当しました。施工管理では、現場代理人と連携し、工程の進捗や施工品質の確認と指示出しをしました。お客様等からの要望をタイ語・英語で正確に伝えることに苦労した一方で、困ったときに助けてくれるタイのスタッフに支えられ、人と人のつながりが業務を進める上で重要だと実感しました。今後タイでは、データセンター等の大型案件も視野に入れて事業が拡大していくと考えています。日本でさまざまな現場経験を積み、将来的にはタイで活躍できるよう精進いたします。

海外における施工事例

施工事例 Resorts World Sentosa Thermal Energy Storage (TES) Tank

シンガポールの大規模総合リゾート施設である、Resorts World Sentosaの第2熱源機械室の追加熱源として、冷水約12,310m³（有効容量24,000冷凍トン）を貯蔵可能な温度成層式縦型蓄熱槽を新設しました。ダイダンは建築および機械・電氣工事を担当しました。技術研究所の支援を受けて流体解析（CFD）によりタンク内部の配管配置と蓄熱・放熱性能を最適化し、安定した温度成層を確保しました。さらに、防水サンドイッチ構造や高性能計測機器を採用し、厳しい制約条件下でも品質・安全・性能の基準を満たして竣工しました。

建物概要	
所在地	8 Sentosa Gateway, Singapore 098269
用途	リゾート施設・ホテル
規模	7,123.62m ² 、地上1階＋地下4階
構造	RC造、プレキャストコンクリート（B1階床）
竣工	2026年1月

設備概要	
蓄熱層	第2熱源機械室チラープラントシステム 増強用温度成層式縦型蓄熱層 容量：12,310m ³ 有効容量：24,000冷凍トン（3,000トン×8時間）
放熱・蓄熱システム	ディフューザ（ディストリビューター）28台、蓄熱・放熱時の流量制御、温度成層維持、蓄冷効率・システム性能向上
計装・監視（BMS）	BMS（中央監視・制御）、水位センサー、温度監視、流量計、運転データのリアルタイム監視・トレンド管理、性能管理・運用最適化
防水・断熱	防水サンドイッチ構造（ポリウレタン断熱75mm＋ポリウレタ防水2mm×2層）、熱侵入低減（断熱）、漏水防止（水密）、冷水温度保持・耐久性確保

Resorts World Sentosa
Project Manager
Mr.Jie Zhong

お客さまの声

本プロジェクトはシンガポール最大級の温度成層式縦型蓄熱槽であり、周囲にホテル施設が隣接するなど、技術的・環境的に非常に困難な条件下での施工でした。工事期間中の騒音対策を適切に管理し、各種要望にも迅速に対応頂いた点を高く評価しております。また、設計・技術的課題に対しても、懸念点を見落とすことなく主体的に解決しようとする姿勢に深く感謝しています。皆様のプロフェッショナリズムと献身が、この複雑なプロジェクトの成功に大きく貢献しました。



シンガポール支店
Manager
Muniyappillai Raja

担当者の声

本プロジェクトは、要求仕様に合わせた特殊性の高い建築・機械電氣工事であり、地下タンク内での閉所作業を1年以上継続して行う点が大きな挑戦でした。特殊防水工法や高性能計測機器、大容量水槽の監視などに対応するため、日本の技術研究所と連携し流体解析を繰り返し行い、綿密な調整とチームワークで完遂することができました。その結果、お客さまより「高い技術力と施工能力を有する設備業者」との評価を頂きました。本プロジェクトで得た知見を今後に活かすとともに、関係者の皆様に御礼申し上げます。

熱源設備工事を担当

